

「わが団地に春が来た」

2022年02月14日



ろう梅



白梅



紅梅



ボケ

立春が過ぎて、我が団地にも春が来た。まず、ろう梅が黄色い花をつける。そして、白梅が花を咲かせ、周りにかぐわしい香りを放つ。少し遅れて紅梅の花が咲く。散歩しながら、梅の花の変化を楽しむことができる。

我が家は南向きに部屋が三つ並び、全ての部屋からバルコニーに出ることができる。バルコニーは結構広い。妻は三十数個の鉢を並べ、色々な花木を育てている。日当たりがよく、温かいせいか、南方のハイビスカスの花が、年中と言っていいほど花を咲かせる。可愛いメジロが、花の蜜や、枝についた小さな虫を目当てにしてか、やって来る。よく来るのがヒヨドリである。ヒヨドリは毎年、クリスマスホリーの赤い実を食べに来るが、今年は1個しか実を付けなかった。餌が少ないのであろうか、ボケの赤い花びらをついばむ。ボケは花が咲くやいなや、食べられて、写真のように散々だった。

10日、半年毎の検診に行き、医者から、「順調に回復し、再発もないでしょう」との結果を聞くことができた。私は「80歳を過ぎ、いつ死んでもいい年ですが、先生のお陰で、命を長らえました。心から感謝します」と申し上げた。また、「毎日五千歩ほど、のろのろ歩きの散歩

をし、皆から追い越されるが、まだ、死ぬような気分にはなれません」とも言った。先生は笑いながら、「あれだけの治療に耐えたのですから、90まではいくでしょう」と言われた。データを見ると、抗がん剤の影響なのか、腎臓が少し弱っているらしい。歩くのも、当然ながら、老人歩きになっている。リンパ腫は乗り越えた。団地に春は来たが、私に春が訪れることはもはやない。老いの坂を穏やかに降りていくことができれば、と思っている。



メジロ



ヒヨドリ